

広報

ただみ

3
2022 月号
No. 622
令和4年3月10日



《特集》
甲子園 出場おめでとう
只見高校 野球部…………… 2～3

「只見の仕事着文化継承
～ユツコギラクシヨツプ～」開催… 4～5

《News&Flash》…………… 6～7

《町の話題》…………… 8～11

今月の表紙

「冬の只見湖」
冬の只見町のほんの数日の晴れ間は、
只見町の冬景色を輝かせます。
風も穏やかな日は、只見湖に景色が鏡
のようにキレイに映し出されます。

甲子園出場おめでとう



只見高校 野球部

「甲子園出場通知が届く」

1月28日に開かれた第94回選抜高校野球大会（以下春の選抜）の選考委員会で、只見高校が21世紀枠出場校に決定しました。

出場決定の電話を受けた伊藤校長先生は、決定の電話を受けるとガッツポーズをし、「謹んでお受けいたします。21世紀枠出場校の名に恥じぬよう、できる限りの準備をして大会に臨みます」と答えました。その後、体育館で待機していた野球部員に春の選抜出場決定を伝えると、部員たちは喜びの声を漏らし、感極まった部員もいました。

長谷川監督は「今までこの地で野球

をやってきたことに誇りを持ち、甲子園の舞台でも力を発揮して欲しい」と部員たちに話しました。

「過疎地域の「希望」に」

只見高校野球部は、選手13人、マネージャー2人と少ない中でも、昨秋の県大会ベスト8の成績を残したことや、豪雪地での練習など困難な環境で頑張る姿が、同じような境遇の他校の「希望」になると高い評価を受けました。また、只見高校は、只見町外から生徒を受け入れる「山村教育留学制度」を利用した選手と地元選手が一体となり、過疎地域の活力になっていることも評価されています。

只見高校野球部 昨秋の県大会の成績

○2回戦	白河旭	000	010	000	1
	只見	100	000	01×	2
○3回戦	相馬東	100	020	210	00
	只見	100	201	101	01
○4回戦	会津学鳳	200	200	010	5
	只見	001	101	04×	7
○準々決勝	只見	000	000	000	0
	いわき光洋	006	000	00×	6

3回戦の延長11回サヨナラ勝ちや、4回戦の逆転勝ちは、粘り強さや諦めない気持ちが甲子園出場につながりました。

ガバメントクラウドファンディング 『「小さな学校の大きな可能性への挑戦」 甲子園出場を決めた 只見高校を応援したい！』

町では、ふるさと納税を活用したクラウドファンディング型の只見高校を応援するプロジェクトを、2月4日から開始しました。

皆様の温かいご支援により、開始から10日目に目標金額500万円を達成しました。ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました。

なお、プロジェクトは3月31日まで継続いたしますので、引き続きよろしくお願ひします。



▲ピロティで練習する選手



▲積雪の道路でロードワークする選手

野球部員紹介

選手の皆さんに、春の選抜に向けての抱負やメッセージをいただきましたので、ご紹介します。



(只見中出身)

きつるい
吉津 壘

(2年・主将) 遊撃手

今回の甲子園出場は、自分達だけの力ではなく、環境整備や応援をくださった町の皆さんをはじめとした多くの方のおかげだと思っています。
出場報告が出来たことは1つの恩返しになったと思いますが、結果も出せるように頑張りたいです。



(只見中出身)

さかい はるか (2年)
酒井 悠来 投手

地域の皆さんのおかげで甲子園出場を手にすることができました。センバツでは、プレーで恩返しができると思います。応援、よろしくお願いします。



(会津若松市立第二中出身)

むらい りく (2年・副主将)
室井 莉空 二塁手

1日1日内容の濃い練習をして、できる限りの準備をして試合に臨みたいです。甲子園では応援してくださっている方々のために笑顔で全力プレーをしていきたいです。



(只見中出身)

さとう ひろたか (2年)
佐藤 央崇 一塁手

自分達らしく、粘り強く諦めないプレーをしてきたいと思っています。町の皆さんへの日頃の感謝をプレーに出したいです。



(只見中出身)

やまうち ゆうと (2年)
山内 友斗 捕手

自分たちの武器「全力疾走」を持ち味に笑顔でプレーしてきます。いつも応援してくださっている町の皆さんへプレーで恩返しできるように頑張ります。



(只見中出身)

おおたけ ゆうま (2年)
大竹 優真 投手

甲子園という大きな舞台で只見高校らしいプレーを見せたいと思います。自分らしいピッチングで、1球1球大切に投げたいと思います。



(只見中出身)

はそめ はるき (1年)
羽染 治輝 捕手、外野手

「全力疾走」を武器に、日頃の練習成果を出し惜みなく1プレー1プレーを大切に頑張ります。皆さん、応援よろしくお願いします。



(会津若松市立一箕中出身)

やまうち ゆうしん (2年)
山内 優心 外野手、捕手

チームでやってきたこと全てを見せられるようなプレーをしてきたいと思っています。只見町の可能性を甲子園でアピールできるように頑張ります。



(会津若松市立第二中出身)

いのまた ともき (2年)
猪俣 智生 外野手

チームのモットーである「全力疾走」を甲子園でも発揮できるように頑張りたいです。応援よろしくお願いします。



(只見中出身)

すずき えいと (1年)
鈴木 詠大 三塁手

自分の持ち味を生かし、1球1球集中して精一杯プレーします。チーム一丸となって頑張りますので、応援よろしくお願いします。



(只見中出身)

やまうち たいき (1年)
山内 太喜 二塁手、外野手

日頃の練習成果を発揮して、自分ができることを精一杯やって只見町を元気づけられるように頑張ります。



(会津若松市立一箕中出身)

わたなべ るいと (1年)
渡邊 琉英斗 一塁手

守備に自信があります。守備でチームに貢献して甲子園優勝を目指して頑張りたいと思います。応援よろしくお願いします。



(茅ヶ崎市立北陽中出身)

さいとう かほ (1年)
齋藤 花穂 マネージャー

チームの皆さんも只見町の皆さんも楽しめるような試合ができるように、全力で選手を支えていきたいと思っています。応援よろしくお願いします。



(只見中出身)

わたなべ まこ (2年)
渡部 茉莉 マネージャー

選手が緊張せず、普段どおりのプレーができるように精一杯サポートをしていきたいと思っています。応援よろしくお願いします。



(只見中出身)

さかい れいと (1年)
酒井 怜斗 外野手

選手として、只見町を元気づけられるようなプレーをしてきたいと思っています。精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

春の選抜は3月18日から開催です。只見高校の初戦は

21日 第3試合 対戦相手は大垣日本大学高等学校(岐阜県)です。

ぜひ皆さんで只見高校を応援しましょう。



ガンバレ! 只見高校!!



「只見ユネスコエコパーク活動支援補助金事業」

「只見の仕事着文化継承 ～ユツコギワークショップ～」開催

ユツコギ ワークショップ開催

合同会社メーデルリーフ主催の「只見の仕事着文化継承（ユツコギワークショップ）」が、開催されました。

この事業は、「只見ユネスコエコパーク活動支援補助金」の採択を受けた事業で、只見町に古くから受け継がれてきた仕事着である「ユツコギ」を次の世代に伝えていくことを目的とした取り組みです。

まずワークショップに向けて、町内のユツコギや縞生地を集めるところから始まりました。使う人が少なくなっている中、多くの方の協力もあり、60本以上のユツコギや縞生地が集まりました。

第1回のワークショップは「ふるさと館田子倉」で開催され、新國道子さんを講師に招きユツコギの歴史や作り方、地区ごとの違いなどを学びました。その後、参加者は実際に試着したり、今後も使いつけていくにはどうすれば良いのかを話し合いました。

ユツコギとは？

山仕事や農作業など仕事の際に着用されていた下半身に着用する仕事着のことです。上半身に着用するものは「シゴトシ」または「シゴトジバン（仕事襦袢）」と呼ばれていたそうです。

仕事をする際は、上半身は「シゴトシ」、下半身はユツコギを着用し、帯をしめて仕事をしていました。

呼び方の由来は、「雪漕ぎ（ゆきこぎ）」から来ているという説があります。また伊南川や只見川流域などの地域によって、「サルツパカマ」「ホソツパカマ」「カリアガリユツコギ」など呼び方は多岐にわたるそうです。

素材には木綿が主に用いられ、動きやすいように細く仕立てられています。冬期間は、太くゆったりしたものに仕立てて着用します。こちらは「ダフツパカマ」「ダフユツコギ」「ブタユツコギ」などと呼ばれていました。



▶ユツコギを試着する参加者



▶ユツコギの作りを確認する参加者



▶1本の反物が無駄なく使われ、ユッコギが作られていることを確認しました



▶解体しながらユッコギの作り方を確認しました



▶反物に見立てた手拭いでミニユッコギを作成



▶取った型は、新たなユッコギ作りに使われます



▶かわいいミニユッコギが完成しました

第2回ワークショップでは、ユッコギの型取りやミニユッコギ作りなどが行われました。
 参加者は、ユッコギが1本の反物から無駄なく作られていることを確認するなど、ものを大切に作る工夫と精神に感心していました。
 またワークショップ中では、実際にユッコギを作るためのデザインなどの検討も行われました。
 今後も只見町の貴重なユッコギを伝承する取り組みを進めていきます。

「ユネスコエコパーク活動支援補助金」

人間と自然との共生を実践するユネスコエコパークのまちづくりを推進するため、只見地域の自然環境、生物多様性の保護・保全とそれらを拠り所とした地域の伝統産業、生活・文化の継承、発展に資する活動に要する経費を補助するものです。(町内で事業をしている方が対象)

補助額

1事業主体あたり30万円を上限とします(10/10以内)

補助対象

- 自然環境、野生動植物の保護・保全事業
只見BRの自然環境・野生動植物の保護・保全を目的とした取り組み
- 教育・人材育成事業
只見BRを推進する人材の教育・育成を目的とした取り組み
- 持続可能な地域社会経済の発展事業
只見BRの伝統的な生活文化の継承・発展、地場産業の育成を目的とした取り組みなど
- 「自然首都・只見」伝承産品ブランド化支援事業
伝承産品の振興・向上、また技術伝承等を目的とした取り組み

詳細については、地域創生課ユネスコエコパーク推進係までご連絡ください。

問合せ先

地域創生課ユネスコエコパーク推進係
 TEL: 82-5220 Mail: tadamibr@town.tadami.lg.jp

**オンラインで交流を深める
千葉県柏市長と只見町長
「オンライン面談」**



▲太田市長は「只見町をはじめ福島県は、縁があり大変好きなところですよ」と話されました

ふるさと交流都市提携を結ぶ柏市と相互友好を深めるため、太田和美柏市長と渡部町長が、2月14日にオンライン面談を行いました。

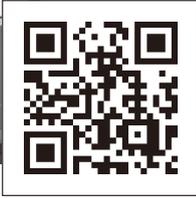
面談は、只見高校甲子園出場や雪まつり等の話題に触れながら、お互いの市町の取り組み等について情報交換をしました。

両市町長は「トップや関係者の繋がりがだけでなく、両市町の子どもたちや民間企業・団体同士でも交流を広げていけるようにしていきたい」と交流の今後の展望について話しました。

**先を見据えた地域づくりを考える
「第6回越後・南会津街道観光・地域づくり円卓会議」**



▲円卓会議をきっかけに始まった市町連携事業の進捗報告なども行われました



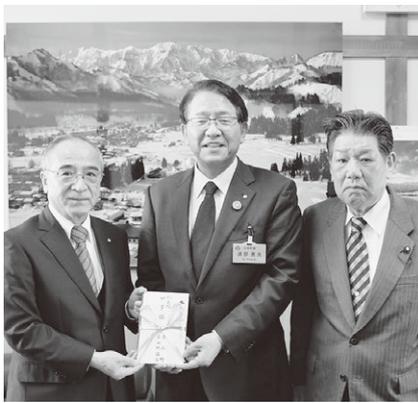
▲「八十里越街道」のページにアクセスします

新潟県三条市・南会津町・只見町の3市町が地域づくりを検討する「第6回越後・南会津街道観光・地域づくり円卓会議」が、2月14日に開かれました。

滝沢三条市長は「この地域の未来に向けた意見交換をすることで、三市町の連携がより強まることを願っています」と挨拶をしました。

その後、3市町が連携して地域の魅力などを発信するホームページ「八十里越街道」の公開に向けた最終調整を行いました。

**只見高校の応援のために
両沼地方町村会、
金山町・金山町議会が寄附**



▽25日に来庁された押部金山町長(左)、五ノ井議長



△21日に来庁された会長の三澤湯川村長(右)、副会長の舟木昭和村長(左)

2月21日に両沼地方町村会、同月25日に金山町と金山町議会が、只見高校野球部の甲子園出場応援のために只見町に寄附をされました。

三澤会長は「只見高校は会津の希望。甲子園でも元氣あふれるプレーを見せてほしい」と話しました。

**只見線復興のために
合同会社メーデルリーフ、
松屋酒店が寄附**



▲只見線復興のため、有効に活用いたします

合同会社メーデルリーフと松屋酒店が、寄附のために2月21日に町役場を訪問しました。

合同会社メーデルリーフは、只見線マグネットシート等の只見線関連商品の売上から金152,710円、松屋酒店は、店内レジ横に只見線募金箱を設置し集めた金296,646円をそれぞれ町に寄附をされました。

合同会社メーデルリーフの酒井さんは「秋の只見線全線開通に向けて有効に活用してほしい」、松屋酒店の吉津さんは「皆さんからの善意です。只見線のために継続して集めていきたい」と話しました。

農業にも子どもたちの取り組みを

只見町農業再生協議会総会

令和3年度只見町農業再生協議会第2回総会が、1月28日に開催されました。

議長を務めた渡部町長は「日頃より農政全般において尽力をいただきありがとうございます」とあいさつをしました。

総会では、令和4年度只見町農業再生協議会水田収益力強化ビジョンの策定方針である「農業用マイクロプラスチック問題への対応」について、「町内の小中高校生がESDや海洋教育に力を入れる中で、農業用肥料に使われているプラスチック被膜が水田から河川に流れ、海を汚染していることが全国的に問題となっている。そこで水稲作付においてマイクロプラスチックを使用しない、水稲初期一発施肥による実証実験を行う」ことなどが協議されました。



ESDユネスコスクール東北フォーラム

只見中学校最優秀賞受賞

オンラインで開催されたESD／ユネスコスクール・東北コンソーシアム探求型学習・課題研究会が、1月29日に開催され、只見中学校が2年連続となる最優秀賞を受賞しました。

増田司さん（2年）と佐藤優妃さん（2年）は寸劇を取り入れた発表をし、長谷部優歌さん（1年）は、英語でSDGs実践概要発表をしました。

参加した発表者は、「東北各地の高校や中学校の取り組みや考え方に触れることができ大変有意義でした」と話しました。



▲オンラインでの研究会に参加した 増田さん(左)、佐藤さん(中)、長谷部さん(右)

只見中 中学生記者が書く SDGsコラム

第2回

すぐにできるエコを只見町から

文：元SDGs委員長 ^{すずき}鈴木 ^{ねお}音緒（3年生）



私は2年生の時、学校の行事で新潟県の海に砂浜のゴミ拾いと魚釣り体験に行きました。前年ゴミ拾いを経験した先輩からもゴミが多いことを知らされていました。現地に近づきバスの車窓から見ていた時は、ゴミが少し確認できる程度でしたが、実際に砂浜に立つとそのゴミの多さに唖然としました。そのゴミの中には、プラスチックでできた容器や発泡スチロール、サンダルや靴まで流れ着いていました。容器のラベルから判断すると、遠く大陸から流れ着いたと考えられるペットボトルもありました。拾いながら考えたのが、外国に注意を喚起することよりも、上流に住む私たちがゴミをきちんと始末をするということが大切だということです。中にはポイ捨てをする人もいるかもしれませんが、多くのゴミはゴミ箱からこぼれ落ちたり、お菓子の包装がハンカチを取り出す際にポケットから出てしまうこともあるようです。風に吹かれてこれらのゴミが只見川に流れてしまうことは容易に予想できます。川は海に繋がっているは誰でも知っていることです。ちょっとした心遣いで、こういったゴミがなくなり、下流で生活する人々に迷惑をかけなくて済むのです。

海から遠い私たちが、#14「海の豊かさを守ろう」に協力できるとしたら、まずはここからではないでしょうか。自分たちで身近にできるところからやっていきましょう。

只見町の大人から学ぶ

只見ゼミ「只見の自慢！南郷トマトブランドを守る」

吉津紘二さんによる講和「只見の自慢！南郷トマトブランドを守る」が、1月26日に只見高校生を対象に開かれました。この講話は心志塾主催の「只見ゼミ」の取組みの一つとして行われました。

講話では、南郷トマトや皆が思う農家のイメージについて解説されました。最後に紘二さんは「勉強で得られる集中力や情報を整理する能力、目標設定の仕方などは、将来どんな職業についても役に立ちます」と高校の勉強と将来のつながりについて話しました。

参加した高校生は「只見町のトマトは、農家さん毎に独立しているわけではなく、皆で支え合って作られていることが分かりました」と話しました。



▲只見高校生に講話をする吉津紘二さん

冬のおうち時間を楽しむイベント

森林の分校ふざわ2022冬イベント開催



▲「バレンタイン・ホワイトデー大作戦」では、美味しく可愛いスコーンができました

森林の分校ふざわ主催の「バレンタイン・ホワイトデー大作戦」（1月30日）と「ボードゲームCafé」（2月19日～27日までの土日祝）が開かれました。

「バレンタイン・ホワイトデー大作戦」で行われたスコーンづくり教室では、参加者が思い思いにデザインしたスコーンを完成させました。

「ボードゲームCafé」では、10種類以上のボードゲームが準備され、年齢に関係なく楽しい時間を過ごしました。

また、3月20、21、27日には、只見産材を使って楽しむ「イースターエッグガーランドづくり&エッグハント」を予定しています。（参加要予約）

お問合せ：森林の分校ふざわ TEL 71-9511

只見町ブナセンター友の会主催

写真展「只見の自然と暮らしを撮る」

写真展「只見の自然と暮らしを撮る」が、ただみ・ブナと川のミュージアムで開催中です。

只見町ブナセンター友の会の皆さんが中心となり、集められた写真は500枚を超え、全てを1度に展示することができませんでした。そこで、展示室を増設して展示しています。

昨年、写真展をご覧になった方も、また違った写真をご覧いただけますので、ぜひ足をお運びください。

写真展の入場料は無料で、展示期間は3月31日までとなっています。

お問合せ：只見町ブナセンター TEL 72-8355



▲自然だけでなく人々の魅力的な暮らしも写されています

思いを伝えるために

只見小学校6年生 ^{ゆだ もも あ} 湯田 桃杏



私たち六年生は、保育所の時からずっとほぼ同じ顔ぶれで過ごしてきました。それが六年生にもなると、友達を考えていることが何となく分かるような気がしてしまい、小さなことをあえて伝えようとはしなくなっていた気がします。

しかし、去年の四月、それではないというのを思い知らされました。

それは、私の学級が六年生だけでなく五年生との複式学級になったことで実感することができました。四・五年生の時も複式学級ではあったのですが、担当する先生がもう一人いて、別々の教室で過ごすことが多かったため、言葉で伝えるという必要性をあまり感じることはありませんでした。

今年度が始まり、五・六年生のふん囲気はよいとは思いませんでした。それは、学年の友達でまとまってしまい、よそよそしさが見られたからです。

そのとき私は、去年五年生だったときに六年生との合同の授業で、六年生に遠慮して自分の考えや思いを伝えることができなかつたことを思い出しました。もしかしたら、五年生も私たちに遠慮しているのではないかと思ひ、話し合い活動や休み時間などで私からたくさん話しかければ、仲良く生活できるのではないかと考え、実行してみました。

その結果、二学期には、教室のふん囲気がとてもよくなつていききました。今では五・六年生が一緒になつて話し合つたり、休み時間を過ごしたりすることができています。そのように思いを伝えられるようになってきたよさは、授業にも表れました。

複式学級での国語や算数の授業は、五・六年生が一緒の教室で同時に行います。しかも、教える先生は、二年生なのに一人だけです。つまり先生が片方の学年を教えているときは、もう片方の学年は自分たちで授業をすすめるなければいけなくなつてしまつたということです。

初めは、自分たちだけで授業を進められるのかと、とても不安に感じたり、とまどつたりしながらも力を合わせて学習を続けてきました。

そして、二学期になつて、友達の思いに寄りそつてアドバイスをしたり、苦手なところを素直に教えてほしいと伝えたりすることができるようになつてきました。そのようにして思いを伝えることができるようになってきた私たちは、自分たちで学習を進められるようになってきたことで、以前よりも力がついてきたことを実感することができています。

言葉以外で伝える方法があることも、感じるようになりました。それは、2学期の初めに私たちの学級目標である「優顔責信」につい

て話し合つたときのことでした。

この目標には、下級生には優しく接し、学校の顔として笑顔で過ごし、責任をもつた行動をすることでみんなから信頼される学級になろうという意味があります。そんな学級になつているか、私にはとても自信がありませんでした。私はどうしたらよいかなやんだのですが、五年生に積極的に話しかけたときのことを思い出し、まずは目標を意識して積極的に行動してみることを考えました。

例えば、休み時間に全校生で一緒に遊ぶ際、下級生が楽しめるように考えて接したり、運動委員として、全校生が安全に運動できるように校庭やボールの手入れをしたりしました。これは、言葉とちがつて、私かなぜ、そのような行動をしているのか、下級生にどう思つてほしいのか、下級生には伝わらないかもしれない。しかし、このような行動を続けられ、下級生から信頼されるようになり、学級目標のような学級になると思ひます。

この一年間、私は伝えることの大切さをたくさん実感することができました。これから只見に新しい道路ができたり、情報技術がさらに発達したりすることで、たくさんの人たちとの交流があると思ひます。だからこそ私は、これからも、言葉で、そして行動で思いを伝えることを大切にしていきたいと思ひます。

私が努力をする理由



朝日小学校6年 齋藤 寧々

世界中には、学校に行きたくても行けない子供がいるのを、皆さんは知っていますか？

なぜ学校に行けないかというところ、家が貧しくて授業料が払えなかったり、子供が働かなくてはならなかったりするからです。しかも、このような生活をしている子供の六〇%が女の子なんです。これは、SDGsの目標の、「貧困をなくそう」と四「質の高い教育をみんなに」、そして五「ジェンダー平等を実現しよう」が、まだまだ達成されていないということです。日本では、義務教育という形で六歳になれば自動的に小学校へ通うことができるようになります。教科書も無償でもらうことができます。学習のスタートが当たり前のように与えられています。

ですが、このように環境がとても恵まれているということを、私たちが実感することはあまりないと思います。私は総合的な学習の時間に、SDGsやESDのことを学ぶたびにこの不平等な現実を知り、自分が恵まれた環境にいることへの感謝の気持ちをおぼえたいという思いが高まりました。

私は毎日楽しく学校に通っています。今は、学校での学びをしっかりとし身につけられるように頑張っています。例えば漢字は、学校で行われる漢字グランプリに向けてたくさん練習しています。計算も、やり方がわかるだけでなく、しっかりと問題を

が解けるように練習しています。他にも、学年が上がるにつれて授業が多くなった英語は、正しい発音で話すことや、多くの単語を覚えることを頑張っています。なぜ頑張っているのかというと、小学校で習うことが一番基本になると考えているからです。

でも、学校が嫌いになったこともありました。学習が難しくなってしまうからです。そんな時に先生が、どうやったら楽しくできるか、どうやったら簡単に覚えることができるかなどと一緒に考えてくれました。他にも、私が解けない問題に当たった時に、分かるまで丁寧に教えてくれました。そのおかげで、また学校が楽しくなりました。一人一人に寄り添って、その人の気持ちを理解し、一緒によい方向へ向かっていくことができる先生という職業を素敵だと思うようになりました。

今私は、学習をとっても楽しんでいきます。漢字グランプリで一位を取れた時や、ミスが多かった計算をミスしないでできた時、新しく何かを覚えてもらったときなどが最高に楽しいと感じます。スキー場で偶然出会ったニュージールランドの方と、ほんの少しでも会話ができるときはとてもうれしかったです。

私はこんなに楽しく学校で生活できているのに、他の国の子は学校にすら行けない現実があります。これはおかしいんじゃないかと思っています。

そこで私は考えました。もし、移動式の学校があれば、学校に通えない子供も学習できるのではないかな。もし全ての学校が平和で楽しい場所になれば、世界中の戦争だってなくなるのではないかと。全ての子供たちに学校があり、学ぶことができる。そして、学ぶ楽しさを実感できる。そんな世界で、学ぶ楽しさを伝えられたら、どんなに素晴らしいことでしょうか。

でも、私一人の力でこれらを解決することはできません。同じように考える人が一人でも多くなれば、その可能性は少しずつ高まっていくと思います。

だから私は先生になりたいです。不平等さに疑問をもち、理想の学校を実現させようとする仲間や同志をつくるために。そして、たくさんの方の言葉を、学校に行きたくても行けない子供たちに教えたいからです。そのためにも、まず自分がしっかりと様々なことを理解しなければいけません。なので、今学校でやっていることを、もっともっと頑張りたいです。例えば、いつもより一ページ多く学習するとか、ドリルを何回も繰り返しやるとか、工夫したいです。そして、みんなが楽しく学校に行けるように、学校を平和で楽しい場所にする先生を目指します。私の夢は、先生になることです。

キャプテンとして 学んだこと

ほし ゆず は
明和小学校6年生 星 柚子葉



「今年のキャプテンは柚子葉に決めた。がんばれよ」

コーチからこの言葉を聞いたとき、私の心には二つの思いが生まれました。一つはキャプテンを任されてうれいという気持ち。もう一つは、私にキャプテンなんてできるのかなという不安な気持ちでした。私が思い描く理想のキャプテン像は、去年の『になねえ』のような存在になることです。になねえは、チームが困った時は先頭に立って引つ張るリーダーシップをもっており、場を引きしめるときにはしっかりと引きしめるといふメリハリのあるキャプテンでした。になねえがいてくれたおかげで練習もスムーズに進み、だめなこととはだめと言えだれもがあれ存在でした。「私も『になねえ』のような、みんなからしたわれるキャプテンになりたい」と思い、スタートしたものの、やはりうまくいかず、コーチからは「今まで見てきた中で一番仲が悪いチームだ」と言われるほどでした。また、チームを何とかしなくてはと思えば思うほど焦り、何をすればいいのか分からなくなり、おどおどする私の姿を見て、チームメイトから批判の声もとびました。

「キャプテンに向いてないんじゃない」「副キャプテンの方がしっかりしていてキャプテンらしいよ」と言われてしまったのです。自分でもあまりうまくいかないかと悩んでいた所だったので、この言葉を聞いて心がくずれ落ちそうでした。家でも学校でも毎日のように泣きました。今でもその時のことを思い出すと涙がこみ上げてきます。

でも、そんな時に助けてくれたのが、私の近くにいる、コーチ、お父さん、お母さん、先生です。キャプテンとしてうまくできないことを正直に話すと、「柚子葉は柚子葉のいいところがあるんだから、柚子葉じゃない」「全員にいい顔しようとしなくていいんだよ。柚子葉が思ったことを正直に言うことも大切だよ」という言葉をもらいました。私はこの言葉を聞いた瞬間、すつと肩の荷が下りたようでした。「自分なりのいいチームを作ればいいんだ」「ダメなことはダメと遠慮せずに言うことも必要なんだ」と思えたのです。さらにコーチは私のために何度もチーム全員に「キャプテンの言うことは監督の言うことだと思つて柚子葉のことを信じる」「かげ口を言うことは人として絶対にしてはいけないことだ」と声をかけてくれ、私がいりやすいような環境を作ってくれました。

そこから、何でも言い合えるような、全員が仲の良いチームへと急激に変わったわけではありませんが、少なくとも私は始めの時よりも孤独ではなく、気持ちを強くもつてキャプテンを務めることができるようになりました。

自分が思い描いた理想のキャプテン生活ではありませんでした。私は泣いたままでも終わらずに、周りの人に支えられながら最後までキャプテンとしてやりきることができたのです。その最後までやりきったということに自信をもち、胸を張りたいと思います。

小学校三年生から始めたスポ少のバレーボールも十二月十九日で引退しました。バレーボールは私に、つらいことも楽しいことも、くやしいことも、うれしいことも、たくさん。の気持ちを味わわせてくれました。もしかしたら最後の一年間は泣いていた時の方が多かったかも知れませんが、ですが、キャプテンをやったことで「逃げずにやりきる大切さ」「だめなこととはだめと言う勇氣」そして「支えてくれる人の温かさ」に気がつくことができました。私の周りにはたくさんの方がいます。「柚子葉は柚子葉なりに頑張ればいい」この言葉があったからこそ、私は自分を見失わずにいることができました。そんな私に力を与えてくれた人たちをこれからも大切に、そして今度は、私の「言葉」で、困ったり、悩んだりしている人を支えられる、そんな人になりたいです。

広報ただみ診療所

いよいよコロナ共生社会へ！

朝日診療所 所長 わかやま 若山 たかし 隆



2022年2月まで猛威を振るっていた新型コロナウイルス・オミクロン株ですが、3月になるとだいぶ数が減っていると思います(予想が外れていたらごめんなさい)。オミクロン株はデルタ株などのこれまでのコロナ株と比べて、2倍から3倍も高い感染力をもっていますので、あっという間に広がるのですが、その分おさまっていくスピードも早いようです。海外の状況をみると、およそ1か月で猛烈に増えて、その後1か月で猛烈に減っていきます。日本ではまん延防止措置などで流行を抑える工夫をしたこともあり、もう少しゆっくりになるかもしれません。

また、オミクロン株にはワクチンの3回接種が有効です。ワクチンの重症化予防効果は、ワクチン2回接種後5か月以上経過すると54%程度ですが、ワクチン3回接種で2か月以内は91%、4か月たっても76%の予防効果があるという報告があります。ワクチン3回接種で重症化はある程度長期間予防できそうです。

また、飲み薬もいくつか登場してきました。対象となる方には条件があります。発症して5日以内かつ重症化リスクのある方(高齢者、慢性の肺・心臓の病気のある方など)です。重症化リスクのない若い方などにはまだ投与できません。しかしながら、簡便で有効な治療法があることは心強いことです。

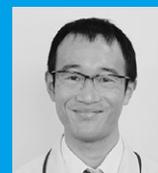
オミクロン株はそもそも重症化が少ないとされます。これまでのデルタ株と比べると、重症化が2分の1から3分の1とされています。

新型コロナウイルスに対する3回目のワクチン接種を打った方が日本全体で増えてくると、上記の他の要素もあいまっていよいよ本当のコロナ共生社会になってくると思います。コロナウイルスに過度に怯えず、感染対策は続けながら、イベント・交流を楽しめるようになる日も近いと思います。良い未来を楽しみに頑張りましょう！

地域おこし協力隊として Vol.87

初めての只見から8年半を経ての移住

只見ユネスコエコパーク推進協力隊 こんどう ゆうた 近藤 友太



私が宇都宮大学のサークル活動で只見町を初めて訪れたのは大学1年生の時、2013年の田植えの時期でした。地元(愛知県豊橋市)は1月下旬には菜の花が満開になる温暖な町でしたので、5月にも関わらずところどころ雪が残っている只見の風景に驚いた記憶が残っています。

その後も定期的にサークル活動で布沢を訪れるうちに、元々家庭菜園が趣味だったことから集落の遊休農地を借りて週末農業を始めることになりました。そして、大学を卒業し栃木県内で就職してからも毎週末布沢へ通い、野菜や豆、ベリー類、ヒマワリなどの栽培をしていました。

ちなみに昨年は管理する畑が1haを超え、イチゴ100kg、ジャガイモ400kg、大豆やハトムギが数十kg…の収穫となりました。(収穫物は知り合いに配るだけでしたので作るほど赤字でした。笑)

このような週末通いの生活が数年続き、只見町に移住をしたい気持ちが日増しに強まっていたところ「地域おこし協力隊」の募集を知り応募をしました。そして、昨年12月に地域創生課の只見ユネスコエコパーク推進協力隊として採用となり、晴れて只見町へ移り住むことができました。初めての只見訪問から8年半が経っていました。

当面の主業務は現在只見町が事務局を担っている「日本ユネスコエコパークネットワーク」(国内10か所のユネスコエコパーク登録地域のネットワーク組織)の事務局運営になります。近くは群馬県のみなみ町、遠くは鹿児島県の屋久島町まで他9地域の担当者との連携を図り、ユネスコエコパークの活動の発展に少しでも貢献できるよう取り組むとともに、併せて、今まで携わってきた農業の方面でも只見ユネスコエコパークの活動の展開に関わっていければと思っております。

皆様これからどうぞ宜しくお願い致します。

只見ユネスコエコパーク Q&A(4)

Q

ユネスコエコパークに登録となった只見町に暮らす私たちができることはありますか？

A

ユネスコエコパークの目的は“人と自然との共生”の実現です。それは、私たちとその次世代、その先の世代までもが安心して、幸せに暮らすためです。そのために私たち人間が生きるうえで必要不可欠な自然環境や野生動植物を守り、そして、それらを絶やすことなく巧みに利活用しながら暮らす方法を継承・発展させることができたなら素晴らしいことだと思います。

どのような取り組みができるかを考える際に、注目すべきは地域のご高齢の方たちがお手本になることです。ご高齢の方たちは地域の自然と共に暮らす生活・文化を長年実践してきており、これから生きる私たちはこの姿に学び、継承・発展させることがユネスコエコパークの重要な取り組みです。

こうした視点に立ってユネスコエコパークの活動に取り組むこととなりますが、具体的に何ができるかは、世代や立場などにより多様に存在します。例えば、以下のようなものが考えられます。

- ・学校教育で地域の自然や伝統的な文化を教え・学ぶこと
- ・集落活動や地域の団体活動で地域の伝統文化を継承すること
- ・観光業における地域の自然や伝統文化を活用したエコツーリズム・グリーンツーリズムの推進
- ・農林水産業における自然環境に配慮した過程で生産される商品の販売とブランド化
- ・商業における地域資源や伝統技術を用いた製品の開発・販売
- ・企業活動での自然環境や野生生物に配慮した事業の計画と実施
- ・家庭での地域で循環するエネルギー（薪など）の使用や地域で生産された食材の使用

このような小さな取り組みの地道な積み重ねが只見町のユネスコエコパークの魅力を輝かせ、只見町の明るい未来を描くことに繋がるはずです。



ちよの会（民間団体）による手毬（伝統文化）の復活と商品化



地域の自然や文化を学ぶことを通して持続可能な社会を考える教育



自然や伝統文化を活かしたエコツーリズム・グリーンツーリズム



集落での伝統行事・伝統芸能の継承（小林神楽）



地域の資源や伝統技術を使ったお土産の開発・販売・ブランド化（伝承産品：るくる木地）



民間企業による野生動物の保全に配慮した工事施工

ユネスコエコパークの活動に関するご相談は只見町役場地域創生課ユネスコエコパーク推進係（電話0241-82-5220）までお気軽にお問い合わせ下さい。

町民文芸



只見短歌会 令和四年二月詠草

居住棟の廊下に冬越す草や花日毎かわるを楽しみ眺む
馬場 八智

豪雪の正月ひと日晴れ間見ゆ冬場に白き桜木映ゆる
関谷登美子

ざらざらの婆の手がいいと我に寄る孫の柔き背搔かず撫でやる
目黒 富子

枕花活けゐるこの手の震へをり故人は母の古き友ゆゑ
新国由紀子

豪雪で大量に積もる屋根の上落雪注意の日毎流るる
渡部ヨリ子

幾度もくり返し読む主治医書きし謙虚な人柄サロンのページ
新国 洋子

(出詠順)



只見俳句会 二月定例会

日高俊平太 指導

友越して雪の更地の広々と
川向かい家並を隠し雪の嵩
弘子

浅草嶺深雪を溶かす球児達
薄暗き雛の座敷を全開す
一穂

家中に孫の気配の三日かな
豪雪やライントークのにぎやかに
一恵

青空を一気に裂いて屋根の雪
障子越えパソコン照らす朝日かな
修一

雪原と夕日に終わるわがひと日
雪の峰仰ぎて朝のコーヒーを
真理子

瞽女越えし峰の風巻か窓を打つ
大寒波底を音なく只見川
幸生

小正月行事田植豆植雪の上
いつの日か正月料理も忘れ去り
睦子

梅の香も風に漂う散歩かな
受験生コーヒー片手に黙々と
信

新たなるわれの思いも初鏡
寒雷落つ雪の庇と共鳴し
紺青

子供等は学校始めの顔となる
七草の名前指折る園児かな
都

沼の平山一面の福寿草
流燈の川を流るる御霊かな
妙子

ふるさとの屋根はまんまる雪の夜
雪ふりて又雪ふりて六地藏
浩子

寒晴やいつの間に消ゆ偏頭痛
逢いにゆくコートかすかに防虫剤
礼

風花をじっと見つめる吾子が手に
謹しみて病後の夫の年酒かな
味代子

今月のお知らせ

試験

国家公務員総合職試験(院卒者・大卒程度)及び一般職試験(大卒程度)

人事院では、国家公務員採用総合職試験(院卒者・大卒者)及び一般職試験(大卒程度)を実施します。

申込みはインターネットにより行ってください。

【総合職試験】

(院卒者・大卒程度)

インターネット申込受付期間
3月18日(金)9時から

4月4日受信分有効

・第1次試験日
4月24日(日)

【一般職試験(大卒程度)】

インターネット申込受付期間
3月18日(金)9時から

4月4日受信分まで有効

なお、申込方法や受験資格等の詳しい内容については、

電話番号

総務課	
総務係 財政係	☎82-5210
地域創生課	
創生企画係 広報広聴係	
ユネスコエコパーク推進係	☎82-5220
町民生活課	
税務係	☎82-5110
町民係	☎82-5100
保健福祉課	
保健係	☎84-7005
福祉係	☎84-7010
農林建設課	
農林係	☎82-5230
建設係	☎82-5270
観光商工課	
観光係 商工係	☎82-5240
会計室	☎82-5120
議会事務局	☎82-5300
農業委員会	☎82-5230
教育委員会	☎82-5320
学校給食センター	☎84-7180
只見保育所	☎82-2219
朝日保育所	☎84-2038
明和保育所	☎86-2249
朝日診療所	☎84-2221
(歯科)	☎84-2612
こぶし苑	☎84-2101
只見振興センター	☎82-2141
朝日振興センター	☎84-2111
明和振興センター	☎86-2111

人事院ホームページ又は問合せ先にお問い合わせください。

【問合せ先】

人事院東北事務局第二課試験係

☎022-2221-2022

ホームページ: <https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>

お知らせ

自動車の移転(変更・抹消)登録

自動車税種別割は、4月1日(午前零時)現在の登録名義人である所有者に課税されますので、自動車の売買や転居等をされた場合は次のことにご注意ください。

○手放した自動車の納税通知書が届いた

自動車税種別割は、4月1日(午前零時)現在の登録名義人である所有者(割賦販売等で所有権が留保されている場合は使用者)に課税されま

すので、移転や抹消の手続きをしないと、もとの所有者に課税されます。

自動車を下取りに出したり、他人に譲ったときは、必ず運輸支局で登録の手続きをしましょう。

※3月末までに登録をしないと、翌年度分の税金が課税されます。

○転居して住民票は移したのに、自動車税種別割納税通知書が届かない

自動車税種別割の納税通知書は、運輸支局に登録されている住所(自動車検査証に記載されている住所)に送付されますので、住民票の異動だけでは新しい住所へ送付されません。

転居したときは、必ず運輸支局で車検証の住所変更の手続きをしましょう。
※3月末までに手続きをしないと、新しい住所に送付されます。

○車検切れで使用していない自動車にも、自動車税種別割は課税される

車検が切れた自動車でも、登録がされている限り自動車税種別割が課税されます。壊れて動かなくなったり、使わなくなった自動車は、運輸支局で抹消の手続きをしましょう。

抹消された翌月から、月割で課税されなくなります。既に年税額を納めている場合には、抹消した翌月以降の税金が還付されます。

※3月末までに抹消登録をすれば、翌年度は課税されません。

【問合せ先】

福島県南会津地方振興局県税部
☎0241-6215212

※登録に関する手続きは、運輸支局や南会津自家用自動車組合、自動車整備工場等にお尋ねください。

税 今月の納期

3月25日までに
納めましょう

●農集排使用料(3月分)



ブナりん健康ポイント

50ポイント到達おめでとうございます!



酒井洋子さん(小林)

酒井洋子さんが、「ブナりん健康ポイント制度」で、50ポイントを達成しました。
これからもサロンや健康講座に参加して、健康に長生きしてくださいね。

県が町村職員の採用活動を支援

「町村職員就職オンラインセミナー」を実施

公務員に関心のある学生や社会人に向けた「町村職員就職オンラインセミナー」が、2月15日に開催されました。

この事業は、県が町村職員の採用活動を支援するもので、就職希望者へ町村や仕事内容の紹介をすることで、将来的な職員確保を目的とするものです。

只見町からは若手職員1名が出席し、只見町で働こうと思ったキッカケなどを紹介しました。

また、セミナー内では庁舎内オンライン見学も行われました。



▲自身の経験などを紹介した只見町の職員

町長から

只見町長 渡部 勇夫

◆ 只見高校の甲子園出場を応援するため、「小さな学校の大きな可能性への挑戦」というクラウドファンディング（ふるさと納税）を開始したところ、開始から僅か10日目に目標金額の500万円に達しました。

2月28日現在で772万円に達しています。あわせて心温まる激励の言葉も本当にたくさんの方々から頂いております。改めまして皆様に心から深く感謝申し上げます。

◆ 今年の青少年健全育成主張大会は、新型コロナウイルス感染症対策のため残念ながら中止となりました。今月号に只見小学校6年の湯田さん、朝日小学校6年の齋藤さん、明和小学校6年の星さんの主張が掲載されています。

それぞれ最初は悩んだり、疑問に感じたことから始まり、更に深く思い悩んだり、周囲の温かい励ましなどもあり、新たな自分の思いに至ったという主張をしっかりとされていきました。この主張（思い）は、きっとこれからの人生を豊かなものにしてくれると信じます。皆さんの未来に心からエールを送ります。

◆ この冬は大雪となり、皆様大変な思いで過ごされたことと思います。

立春を過ぎた時点での豪雪対策本部設置となりましたが、その後も降雪が続き、積雪が3メートルを超えた日もありました。そのような日々を毎朝暗いうちから交通の確保のため、除排雪作業に携わっていただいている関係者の皆様、そして高齢者宅の軒下除雪に携わっていただいている除雪支援保険事業者の皆様、心から感謝申し上げます。

町長スケジュール (2月分)

- | | | | |
|-----|---|-----|---|
| 1日 | 会津ただみ振興公社(株)取締役会、福島県立只見高等学校野球部甲子園出場後援会設立総会、毎日新聞社取材、臨時庁議（新型コロナウイルス対策本部会議 以下「対策本部会議」） | 14日 | 千葉県柏市長オンライン面会 |
| 4日 | 南会津振興局長との意見交換、定例庁議（対策本部会議） | 15日 | かわちやグループ会長他来庁 |
| 7日 | 南会津地方広域市町村圏組合管理者会、福島県土地連南会津支部通常総会、南会津地方町村会総会、南会津地方環境衛生組合管理者会（南会津町） | 16日 | 議会全員協議会、議会2月会議、国道289号入叶津道路の除雪計画に係る意見交換会 |
| 8日 | 当初予算町長査定（～9日）、テレビユー福島取材、(株)シンク社長新年あいさつ来庁 | 17日 | 社会福祉法人南会津会常務来庁、奥会津五町村活性化協議会定例総会 |
| 10日 | みやぎ会津会表敬訪問（仙台市） | 18日 | 事務改善委員会町長報告、南会津建設事務所地域課題検討会 |
| 12日 | 海洋教育学会設立大会特別講和 | 21日 | 議案検討庁議、湯川村長・昭和村長来庁、甲子園出場大会旗受領式 |
| | | 22日 | 南会津地方環境衛生組合議会定例会、南会津地方広域市町村圏組合議会定例会、南会津農林事務所長面会（南会津町） |
| | | 24日 | 東北総合通信局長と面談（仙台市） |
| | | 25日 | 金山町長・金山町議会議長来庁、特定地域づくり事業組合面談、朝日小学校受賞報告 |
| | | 28日 | 只見町山村教育留学生送別式 |

町民の消息

(1月26日～2月25日届出分)敬称略

■お誕生おめでとうございます

小堀ひなの(女/稔裕・麻衣子) 黒谷
 山内 和琥(男/太樹・加奈子) 小林
 目黒 太陽(男/大地・麻伊) 只見

■ご結婚おめでとうございます

叶津 高橋 翔太 ♥ 佐藤 美希 叶津

■おくやみ申し上げます

若林 満雄	83歳	長浜
目黒 康男	89歳	小林
船木 ゆう子	70歳	黒谷
吉津 澄夫	91歳	長浜
渡部 ユキ子	89歳	福井
本名 文子	60歳	只見
馬場 寛	91歳	蒲生
鈴木 ヨウ子	80歳	只見
角田 ヒロセ	96歳	小林

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

令和4年2月1日現在

人	口	3,898 (-4)
男		1,913 (-6)
女		1,985 (+2)
世帯数		1,595 (-2)

※高齢化率は県推計人口調査月報で未掲載のため、掲載していません。ご了承ください。

転入 4 転出 4 出生 2 死亡 6

▽センバツ開催まで残すところ一週間あまりとなりました。選手の皆様も応援している皆さんもドキドキしているのではないでしょうか。

▽取材で何度も只見高校に足を運びました。お邪魔する度、生徒の皆様が足を止めて頭を下げて挨拶してくれれます。その礼儀正しく丁寧な所作が、甲子園出場にながった要因の1つではないかと思ったりします。

▽練習の成果を出し切って、甲子園での試合を楽しんでください。ガンバレ、只見高校。

(小林)

あとがき

朝日振興センター 図書紹介

朝日振興センター図書室
☎84-2111
三瓶 美由紀

おすすめ新着図書

★塞王の楯



今村 翔吾 / 著 (集英社)

幼い頃、落城によって家族を喪った石工の匡介。彼は「絶対に破られない石垣」を作れば、世から戦を無くせると考えていた。一方、戦で父を喪った鉄砲職人の彦九郎は「どんな城も落とす砲」で人を殺し、その恐怖を天下に知らしめれば、戦をする者はいなくなると考えていた。

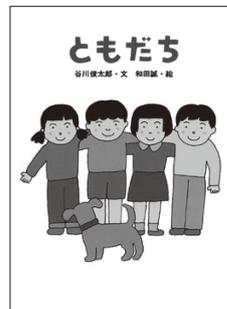
秀吉が病死し、戦乱の気配が近づく中、匡介は京極高次に琵琶湖畔にある大津城の石垣の改修を任される。

攻め手の石田三成は、彦九郎に鉄砲作りを依頼した。

大軍に囲まれ絶体絶命の大津城を舞台に、信念をかけた職人の対決が幕を開ける。

第166回直木賞受賞作です！

★ともだち



谷川 俊太郎 / 著

(玉川大学出版部)

「ともだちって かぜがうつっても へいきだっていってくれるひと」—谷川俊太郎の珠玉の詩と、和田誠のほのぼのとしたイラストによる、幼児～小学校低学年向き絵本。

よい友は一生の宝であり、生きて行くうえで友だちがいかに大切かということ、やさしいことばと楽しい絵により、幼児にもわかりやすく語りかけてくれます。

○朝日振興センターではリクエストを随時受付しています。読んでみたい本があれば、ぜひリクエストしてください。

町民憲章

- 1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう
- 1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう



フクラスズメ

(学名: *Arcte coerulea*)

(文 吉岡義雄)

【チョウ目ヤガ科】



▲ 翅を閉じた姿が羽を逆立てて暖を取るすずめ雀(ふくら雀)に似ていることからこの名がついたと考えられています



▲ 前半身を反り返らせてゆすり、威嚇する幼虫。毒々しい体色と相まって恐ろしく感じられるが、人間に害はありません

雪と北風から守られる人家の中は人だけではなく、昆虫たちにとっても快適な環境です。森の倒木や落ち葉の隙間などで越冬する昆虫は、しばしば人家に侵入して越冬します。今回紹介するフクラスズメもそんな昆虫です。

フクラスズメは、平地から低山の森林に生息するヤガ科の蛾です。成虫は樹液や熟して発酵した果実を食べます。カメムシ類のように悪臭を放ったり、刺したりなどの危害を人に加えることはありませんが、翅を広げると8cmを超える大型昆虫のために、昆虫が苦手な人が嫌がるには十分な大きさです。

幼虫は黒と黄緑の体色に、赤色の斑紋を持つ派手な毛虫です。ただでさえ見るものを威圧する姿ですが、捕食者の気配を察知するとしやちほこのよう^{しやちほこ}に前半身を反り返らせ、体をゆすって威嚇します。毒々しい体色と相まって恐ろしさを感じますが、毛に毒はなく、人が触れても特に害はありません。食草はイラクサ科の野生植物で、農作物を食べるわけではないため、農業被害も与えず、成虫も幼虫も見かけの恐ろしさだけで人に嫌われてしまっている昆虫なのです。

只見町ブナセンターからのお知らせ

「ただみ・ブナと川ミュージアム」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。

企画展「只見の猛禽類」

会 期：2021年12月4日(土)～2022年4月4日(月)

場 所：ただみ・ブナと川ミュージアム 2階ギャラリー